



ミレンニアムシティ
(東京都練馬区)
小野加瑞輝理事長(56)

農場脇に並ぶシェアハウスタイプの「プチ別荘」



▲森の中に建てられたグラスハウス

千葉県香取市、農場を見渡せる200坪の敷地に建つ5棟34戸のグラスハウス。一見ビニールハウスにも見えるガラス張りの建物の中に、高床式住居を思わせる木造の小屋が並ぶ。『くりもとミニニアムシティ』(千葉県香取市)だ。4人の建築家が集まり、エコロジーを中心とした街づくりを目指すべくNPO法人

テーマは「農村への移住」

ミレンニアムシティを立ち上げたのが1999年。自然環境に配慮した住宅と

しても有効だ。第1号である賃貸物件「くりもとミニニアムシティ」が2003年にオープンして以来順調に事業を拡大。来春には分譲型のが開業予定だ。

くりもとでは、グラスハウス1棟が共同の農場を併設した施設、自然との共生を図ることを大きな目的とする。土地活用の一環と

現在は30室の入居があり、入居者は30代から50代と幅広い。いずれも環境問題に興味を持つ人々だ。定住者はおらず、基本的には「プチ別荘」として使

用されている。毎月開催されるワークショットの際に訪れ、環境関連の映画観賞や、有機農場で農業体験などに参加する。

「将来的には農場サ

ルーンを併設させ、ミニニアムシティで収穫した食べ物を提供できる

CO₂削減80%を実現したという同物件の大きな特徴であるグラスハウスは、冬にはガラスを閉じ、夏には解放して風を取り入れ

る。冬で25℃、夏は外気と同じ気温になるため約30℃だが、周辺をけやきの木が取り囲んでいるため、風通しがよく夏でも比較的涼しく過ごせる。また、来春オープン予定の「あさひミニニアムシティ」には太陽光発電と風力発電を併設している。

本格的なレストランを運営し、街の人にはどんどん足を運んでもらえるコミュニティにしたい」と代表理事の小野加瑞輝氏は語る。